

# 熊本地震・速やかな復興のため

## 議会として十分な論議をすべき！

### 党市議団で、「十分な論議と特別委員会設置を求める要望」を提出

4月28日、市議会議長に「議会開催についての申し入れ」を行いました。

今回の熊本地震では想定外の被害が発生しました。最大時、300カ所以上、11万人超の避難者をだし、いまだ余震が続き、市民は不安な毎日です。

未曾有の大災害からの復旧と、被災者の生活再建を速やかにすすめていくためには、災害発生以降、現場で、実態把握・情報収集・被災者の救済・支援等に当たってきた市議会の積極的な政策提言が重要です。

6月議会でどのような議論をするのか、大災害に向き合う市議会の姿勢が問われます。

地震への対応について十分な審議が行われるよう、以下の点について申し入れました。

#### 【要望事項】

- ① 6月議会の日程を十分確保し、委員会を開き、災害対策について十分な論議を行うこと。
- ② 議員全員を構成員とする「熊本地震に関する災害対策特別委員会（仮称）」を設置すること。

#### <6月議会の日程>

6月10日（金）午前10時開会（議会棟・本会議場）

本会議にて、提案理由説明・質疑・討論・採択

\*1日のみの開催で、委員会は開かれません。

\*請願の提出締め切りは、6月3日（金）午後5時

\*陳情書は、委員会が開催されないため、次回開催の委員会に付託されます。

日本共産党市議団は、議長に提出した「申し入れ」の立場で、1日のみの開催に反対しました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

上野みえこ なすまどか 山部洋史

熊本市中央区手取本町1-1 議会棟

NO. 997  
2016年5月22日号  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム：http://www.jcp-kumamoto.com/



## 「野菜を食べたい…」「1カ月お風呂に入っていない…」 避難所の生活環境改善は待ったなし！

本震から一カ月が経過した現在（5月16日午後7時時点）、市内において3000人以上の方が避難所で生活を送っています。

避難所の実態は、多くのところで、おにぎり、菓子パン、缶詰、インスタント味噌汁などを中心とした食事しか配給されず、栄養の偏った食事が続いています。また、シャワーや洗濯機が設置されていない避難所もあり、環境が整わず不自由な生活です。

「せめて一食は野菜が入った食事をとりたい」「お風呂に1カ月入っていない。暖かい湯船につかりたい」などの声が寄せられており、避難所の生活環境改善は待ったなしです。

市議団としても、食事をはじめ避難所の生活環境の改善について熊本市に要請を行うとともに、国会議員団とも連携し、国会質問でも取り上



夕食として、おにぎりや缶詰が並べられていました

げてもらいました。

前震直後の4月15日に示された内閣府の通達では、「適温食の提供、栄養バランスの確保、高齢者や病弱者に対する配慮された食事の提供、冷暖房の設置、洗濯機・乾燥機の設置、簡易シャワー、仮設風呂の設置」など、避難所の生活環境整備の基準が明確に示されています（裏面に全文を記載）。

これからは、梅雨の季節を迎え気温が上がり、雨も増えます。

避難者の健康と命を守るためにも、示された基準を順守し、避難所の生活環境の改善を図るべきです。

### り災証明～納得がいけない場合は再審査を求めることができます

家屋の被害程度を証明するり災証明が、順次発行されています。

り災証明書の交付を受けた方で、判定結果に不服がある方は、

再調査（内部調査）を求めることができます。窓口は、各区役所と各総合出張所です。